

キーワード分析結果(賢明な利活用検討部会)【幹事会作成】

◇利用

キーワード	現状と課題等	対応方法	目標時期	実施主体
ワイズユース	各自治体では、それぞれに利活用に関する計画や地域振興計画の策定・推進が進められています。しかし、各々が各地域を活かすために個別に取り組みを行っているため、全体的な利活用について検討を進めていく必要があると思います。 また、渡良瀬遊水地内の資源だけでなく、その周辺地域が有数する自然、文化、歴史といった多様な資源を含めたかたちでの関係団体が連携し、利活用を進める必要があると思います。	テーマとしては非常に大きなものであり、長期的な視点で「全体計画」の中で取りまとめる方向で進めて行こうと思います。 まずは、各自治体で取り組んでいる地域振興計画内において、どのように利活用するのか紹介し、関係団体が連携できる事項など、話し合っていければと思います。	中・長期的	渡良瀬遊水地保全・利活用協議会を中心に検討を行う。
自然環境を生かした利用	◇各自治体の計画等 栃木市 渡良瀬遊水地ハートランド構想 小山市 渡良瀬遊水地関連振興5ヶ年計画 野木町 水と緑と歴史のまちづくり基本構想 加須市 渡良瀬遊水地利活用推進計画 など	第2調節池の維持・管理及び利活用については、今後話し合っていければと思います。(「遊水地保全・再生検討部会」で議論か?)		
第2調節池湿地再生化の利用	第2調節池は、国で「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」により掘削を行い、現地の状況を「湿地再生モニタリング委員会」により把握しています。ですが、今後の維持・管理、利活用については、未確定です。			
年度における各自治体、民間団体のスケジュールを統一できる事務局(アクリさん)がまとめて公開してほしい	現状は、各主体でそれぞれに情報発信しており、個々にPRしているため周知効果が弱く感じられ、また利便性が低いと考えられます。今後、PRの相乗効果や利用者の利便性を考え、各主体のイベント・行事などの情報発信の一元化が求められると思います。	自治体などが主体となって、情報発信の一元化に向けた仕組みづくりを早急に取り組むべきであると思います。まずは、各自治体などでホームページのリンク対応などが可能かと思われます。	短期的	自治体が主導となって取組みを進める。

◇全体計画

キーワード	現状と課題等	対応方法	目標時期	実施主体
全体的な計画の策定	渡良瀬遊水地に係る計画として、ランドデザインとラムサール条約湿地が基本となっています。 各自治体では、それぞれに利活用に関する計画や地域振興計画の策定が進められており、連携と整合を図る必要があると思います。 →各地域振興計画の紹介・情報提供  ランドデザインとは、平成12年3月に作成された「渡良瀬遊水地の自然保全と自然を生かしたランドデザイン」と言います。その内容は、渡良瀬遊水地の役割と歴史を踏まえつつ、後世に伝えるべき遊水地の有るべき姿を基本理念として、「三川の出会う渡良瀬の広大な湿地の豊かさを伝え(保全)、高め(再生)、活かす(利用)」と定められています。また、将来像の実現に向けては、自然環境保全・再生・利用の留意点と住民参加による将来像の実現が提案されています。このランドデザインは、一般市民からの意見を取り入れ学識経験者、関係自治体、首長、河川管理者による懇談会でとりまとめたものです。	テーマとしては非常に大きなものであり、各テーマの議論を積み上げていながら、長期的な視点で最終目標として全体的な計画(湿地管理計画、ワイズユース基本計画など)として取りまとめたいと思います。  ラムサール条約湿地に登録された他地区の取り組み状況で、渡良瀬遊水地に活用できる事例を紹介し、今後の方向性を皆さんで話していければと思います。	長期的	策定主体は、協議会か、別な主体か(策定委員会等)検討が必要である。
協議会の主な目的を整理してからスタートして欲しい。(例)遊水地の利用者を増加したい	本協議会・部会の目的について、各構成員の共通認識がなされていない状況にあります。また、協議会・部会で協議・検討した内容について、どこにどのように反映させるのか分からないため、協議・検討した内容の反映方法について整理する必要があります。	協議会規約・部会申し合わせ事項を部会等で再度説明し、目的の共通認識を図ります。また、協議会・部会での協議・検討した内容について、その反映方法等について整理を進めていきます。	—	—

## キーワード分析結果(賢明な利活用検討部会)【幹事会作成】

### ◇安全対策

キーワード	現状と課題等	対応方法	目標時期	実施主体
安全対策	渡良瀬遊水地では様々な内容の活動が行われており、その利用形態も多岐に渡っています。それら多様な利用形態が存在する中で、安全対策がそれぞれにとられていることはありますが、それら既存の安全対策の現状について把握されていないように思います。、	現在の利用実態の把握を行うとともに、安全面に関して各主体から情報提供をしてもらい、現状の安全対策の確認を行い、不足等の問題点を洗い出し、対策・対応を検討します。また、安全対策の内容は利用者に対し分かりやすく周知するとともに、ルール等の順守を徹底できるようにします。	短・中期的	渡良瀬遊水地保全・利活用協議会を中心に検討を行う。
地域連携による安全対策	今後も多種多様な形態の利用が見込まれますので、関係団体と調整、情報共有をし、万全な安全対策を講じる必要があります。また、それら安全対策に関する情報を周知徹底させることが重要となります。	安全対策を検討するうえで、多様な主体から構成される本協議会是最適な実施主体ですが、本協議会に参加していない団体、または個人の取扱いをどうするのか、また周知に要する予算(パンフレット)の取り扱いなどの課題があります。		
関係者協力安全対策	渡良瀬遊水地では、日常的に自転車やウォーキングが楽しまれています。近年の自転車ブームによりロードバイクによる走行が多くなり、ルールを守らないことで利用者同士のトラブルが見受けられるようになっていきます。「渡良瀬遊水地利用ルール＆マナー」中には、自転車は『反時計回り、左側通行』と定められていますが、周知徹底が図られていない状況にあります。			
自転車、歩行者の区割の徹底	渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会作成の「渡良瀬遊水地利用ルール＆マナー」に整理されて掲載しています。しかし、イベント等における場合、各主催団体の判断で実施しており、連絡などにも統一したルールがないことがあり、緊急時の対応について不足が生じていることがあります。	「渡良瀬遊水地利用ルール＆マナー」について周知徹底し、安全に利用できる環境を構築します。イベント等における緊急時の対応を確立するため、ルールなどを作成します。	短期的	自治体が主導となって取組みを進める。

### ◇連携・協力

キーワード	現状と課題等	対応方法	目標時期	実施主体
湿地保全への各自治体の協力体制	渡良瀬遊水地保全・利活用協議会を通して、国、自治体、関係機関・団体等の連携協力、ネットワーク構築を図っています。	各構成員においては、情報の共有に努め、連携可能な部分については最大限連携することとします。	短期的	自治体が主導となって取組みを進める。
4県4市2町の緊密な連携(一体化)	・すでに連携協力を実施しているものは ⇒ 行事・イベント(Eポートレース、ヨシ焼き、外来種除去活動)	現在の連携事業・イベントについては、より効果的な運営に努めるとともに、渡良瀬遊水地の魅力を全国に発信できるような取り組みについて今後検討していく価値があると思います。		
関係者の協力体制	・すぐに連携協力できる(すべき)ものは ⇒ 情報発信(情報の一元化)	また、情報発信については、自治体などが主体となって、その一元化に早急に取り組めます。		
自治体の連携強化(各市町村)	・今後、連携・協力を進めていくべきものは ⇒ 人材育成(人材のネットワーク化)	各自治体が独自に行う人材育成プログラムについて、早急に連携・ネットワークの構築に向けた検討体制の整備を進めます。なお、その際は自然観察・体験と観光案内の両面に対する検討が必要と考えます。		
渡良瀬遊水地利用、活性化等の組織の統一化が望ましい。 渡良瀬遊水地の将来像を全体で話し合い共通認識をもつ				

### ◇ルール

キーワード	現状と課題等	対応方法	目標時期	実施主体
利用ルール(マナー、モラル)	渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会作成の「渡良瀬遊水地利用ルール＆マナー」に整理されて掲載しています。	現在の利用実態の把握を行い、ルール・マナーに関して各主体からの情報・意見等を踏まえ、見直しの必要性を検討します。	短期的	渡良瀬遊水地保全・利活用協議会を中心に検討を行う。
遊水地利用のルール作り	ただし、一般利用者やスポーツ利用者による利用形態は様々に変化してきており、常に利用形態に対応したルールが必要になりますので、必要に応じて現行のルール＆マナーの見直しを検討しなければならぬと考えます。			
自転車・各種スポーツの利用に関する基本的なルールづくり	現行の「渡良瀬遊水地ルール＆マナー」には、自然観察・自然体験等におけるルールがありません(第4条②に「渡良瀬遊水地内ではむやみに動植物を荒らさず、自然形態への影響を最小限に留める。」の記載あり)。今後、自然観察や自然体験等などの利用増加が見込まれる中、自然体験・自然観察等などの分野で新たなルール・マナーづくりが必要になってくると思います。	現在の渡良瀬遊水地を環境学習フィールド等で活用している状況を把握し、現状の課題を活用している団体などから情報提供してもらい自然観察などのルール＆マナーを取りまとめ、広報を行うよう、対応していきます。 また、現在ある利用に関するルール＆マナーとどのようにすりあわせていけるのか、皆さんと検討を進めて行きます。	短期的	渡良瀬遊水地保全・利活用協議会を中心に検討を行う。
環境に配慮した利用ルール		多様な団体で構成される本協議会是最適な実施主体ですが、本協議会に参加していない団体、または個人の取扱いをどうするのか、また広報に要する予算(パンフレット)の取り扱いなどの課題があります。		
鳥類、植物、昆虫等の観察マナーの徹底				